



東証(TSE):6264

株式会社マルマエ
2019年8月期 第3四半期決算 補足資料

2019年6月28日

総合力で未来を拓く

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品



PL分析

PL

	2018年8月期 第3四半期累計期間		2019年8月期 第3四半期累計期間		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
受注高	3,615	—	2,666	—	△26.3
受注残高	1,156	—	747	—	△35.4
売上高	3,345	100.0	2,948	100.0	△11.9
売上原価	2,004	59.9	2,144	72.7	6.9
売上総利益	1,340	40.1	804	27.3	△40.0
販売管理費	394	11.8	446	15.1	13.2
営業利益	945	28.3	357	12.1	△62.2
経常利益	935	28.0	345	11.7	△63.1
特別損益	4	0.1	△4	△0.2	△196.2
当期純利益	670	20.1	225	7.6	△66.4
EPS (円)	56.31	—	17.25	—	△69.4

Point

①受注状況

- 半導体分野：2,223百万円
(対前年同期：17.7%減)
- FPD分野：410百万円
(対前年同期：53.3%減)
- その他分野：32百万円
(対前年同期：8.7%減)

②売上高

- 対前年同期11.9%の減少
- ※分野別の詳細は次頁

③売上原価・売上総利益

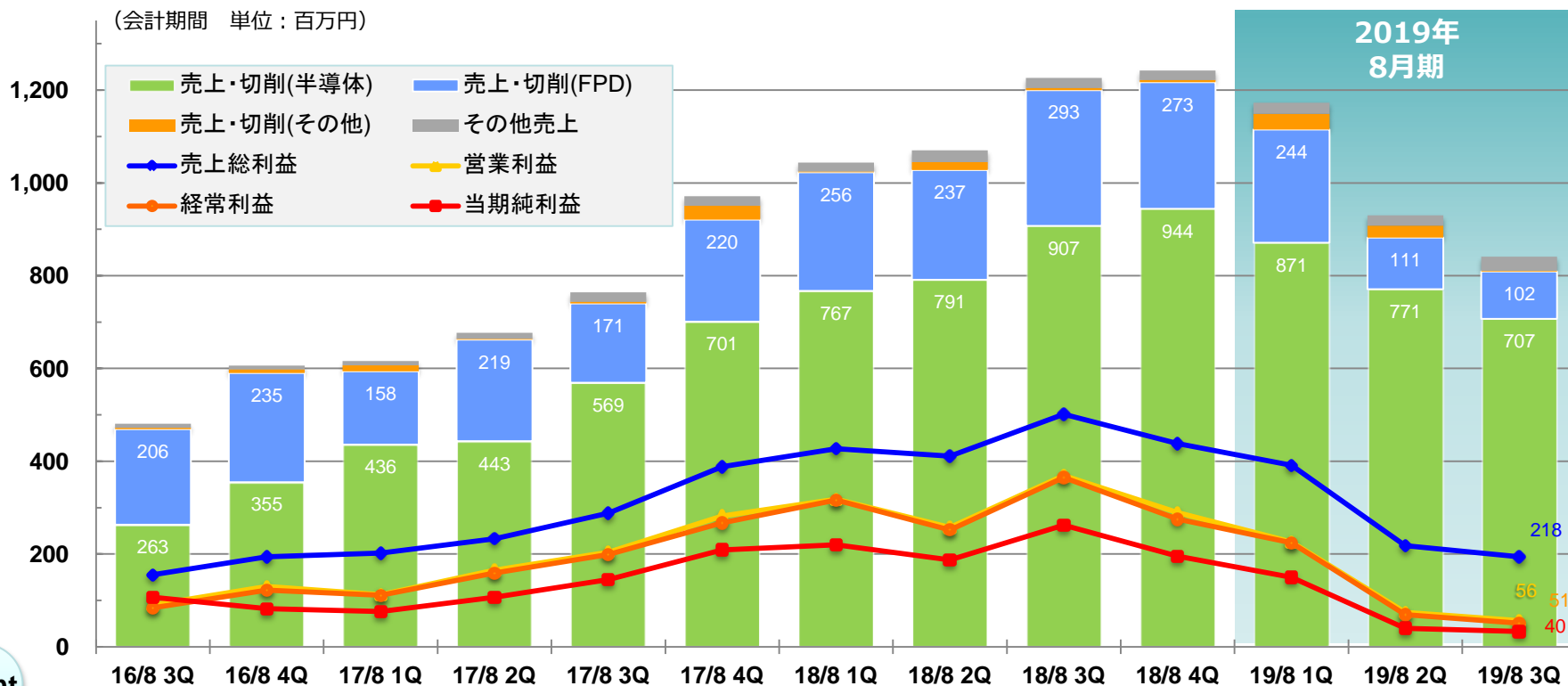
- 材料費：45百万円増
(対前年同期：9.8%増)
- 労務費：59百万円増
(対前年同期：9.7%増)
- 外注加工費：130百万円減
(対前年同期：26.5%減)
- 減価償却費：105百万円増
(対前年同期：49.4%増)

④営業利益

- 販管人件費：51百万円増
(対前年同期：35.6%増)

1.決算概要

四半期業績の推移



Point

①売上高は、半導体・FPD分野共に停滞傾向

- 半導体分野：2,349百万円（対前年同期：4.7%減）
 - ・受注停滞による売上減。自動化による生産体制強化を継続
- FPD分野：458百万円（対前年同期：41.8%減）
 - ・中国向けG6有機EL投資が停滞

■その他分野：64百万円（対前年同期：152.4%増）

②損益面は出水事業所設備稼働に伴う費用増等で減益

- ・昨年末まで生産設備の増強と人材採用を行ったことで、減価償却費や労務費等が大幅に増加
- ・内部管理体制の強化による販管費の増加

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

B/S分析

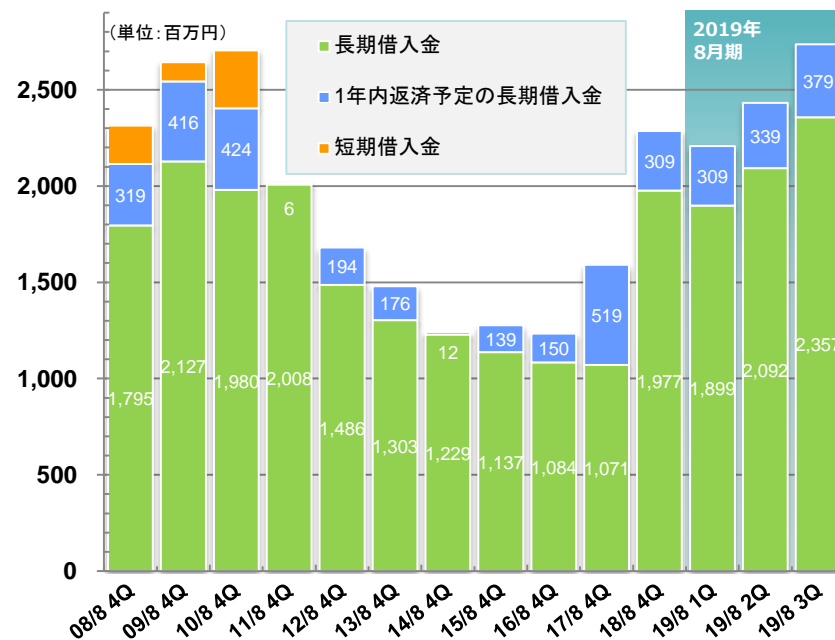
B/S

(単位：百万円)	2018年8月期 会計年度末	2019年8月期 第3四半期会計年度末
流動資産	4,344	3,329
現金及び預金	2,612	2,033
売上債権 (受取手形・売掛金・電子記録債権)	1,236	722
たな卸資産	465	475
固定資産	3,743	4,851
建物・土地	1,816	2,470
機械及び装置	1,679	1,930
流動負債	966	701
有利子負債（短期）※	309	379
固定負債	1,989	2,383
長期借入金	1,977	2,357
負債合計	2,955	3,084
純資産合計	5,132	5,096
総資産	8,088	8,181

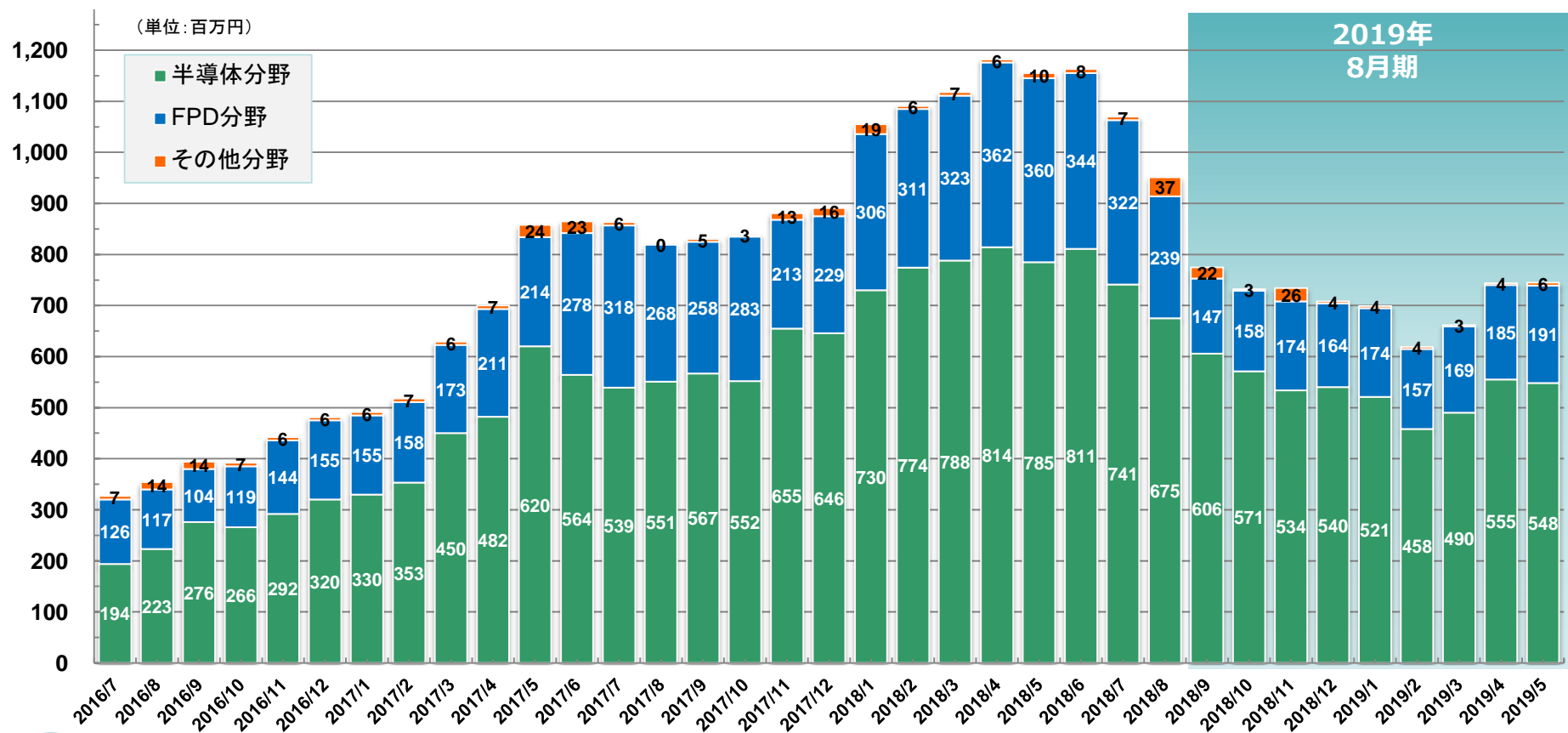
※ 有利子負債（短期）：短期借入金＋1年内返済予定の長期借入金

Point

- ① **資産：8,181百万円(前期末比:92百万円増加)**
 - 有形固定資産：1,081百万円増加
 - 売上債権：513百万円減少
 - 現金及び預金：579百万円減少
- ② **負債：3,084百万円(前期末比:128百万円増加)**
 - 長期借入金：380百万円増加
 - 未払法人税等：303百万円減少
 - 1年内返済予定の長期借入金：70百万円増加
- ③ **純資産：5,096百万円(前期末比:35百万円減少)**
 - 利益剰余金：35百万円減少
 - 自己資本比率：63.5%→62.3%



月次受注残高の推移



Point

- 半導体分野は、ロジック向けの案件は回復基調続き、メモリ向け部品需要も低調ながら再開
- FPD分野は、中小型パネル向けに回復傾向。大型液晶パネル向けの投資も一定数維持
- その他分野に予定していた太陽電池製造装置の受注が想定外の遅れ

※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム (LT) があり、LTの長い案件が多いと売上高にくらべ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高にくらべ受注残は低めに表れます。

販売分野別の環境と方針

半導体分野

- ◆ 足元はロジック中心に回復も米中問題で市場には不透明感
- ◆ 国内メーカー向けは回復続く。試作対応強化で受注拡大継続
- ◆ ロジックに強みある国内メーカーからの試作受注開始

FPD分野

- ◆ 中国で中小型有機EL設備投資再開
- ◆ 大型EBW※により真空チャンバーの溶接工程まで一貫受注
- ◆ 久しぶりの自社生産能力拡張で高成長狙う

その他分野

- ◆ 中国向け太陽電池製造装置の受注遅れ
中国の補助金動向に影響受け、不透明
- ◆ 生産余力を活かし半導体とFPD以外の受注進める

※EBW：電子ビーム溶接の略。真空内で電子ビームを高速に加速し、素材に照射することによって素材を溶融させながら溶接する加工。

3. 2019年8月期の業績予想

今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

業績
予想

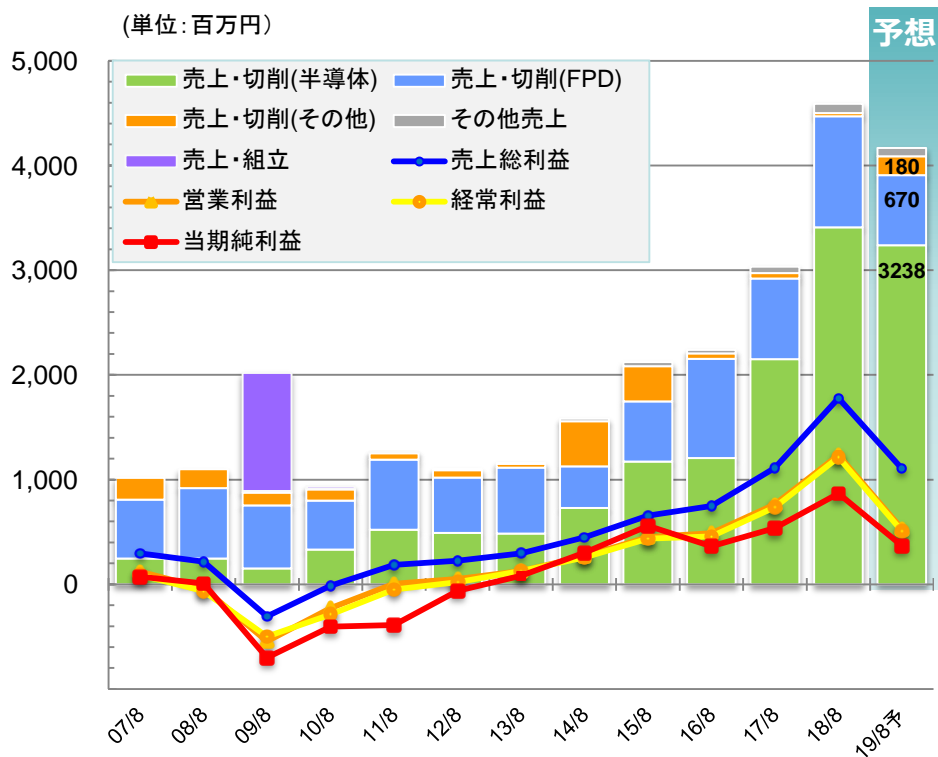
(単位：百万円、1株当たり当期純利益は円)

2019年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利益	1株当たり 純利益
通期	4,170	530	510	370	28.35

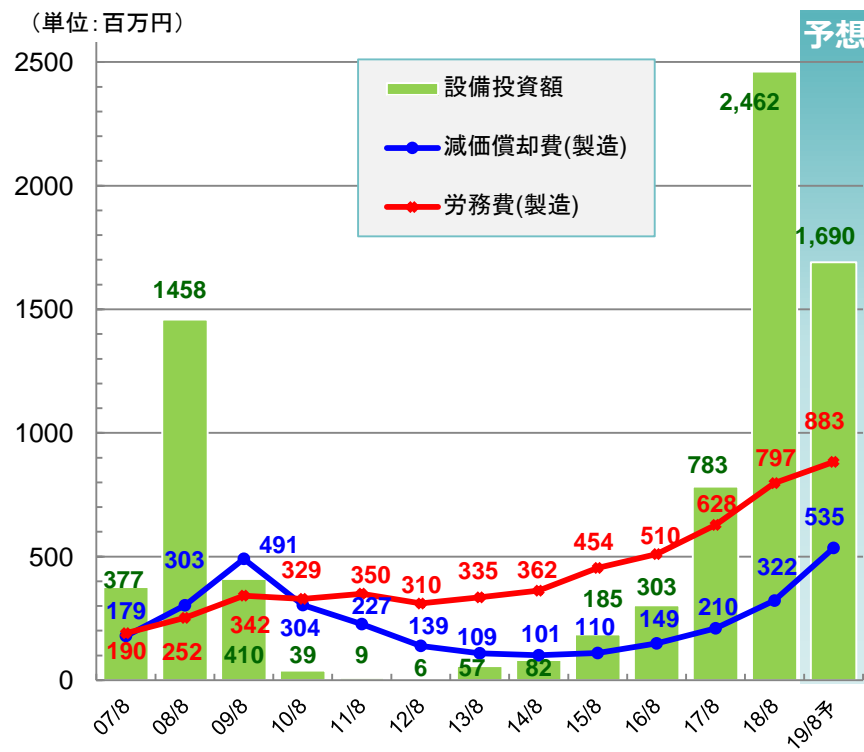
Point

- ✓ 半導体装置国内メーカーは回復も海外停滞
- ✓ その他に見込む太陽電池製造装置に遅れ
- ✓ 次の市場好転に向け生産力維持
- ✓ 設備投資は抑制

(単位：百万円)



(単位：百万円)



※設備投資額は現時点における予想額で、変動があります。

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社マルマエ 管理本部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-68-1140 FAX 0996-68-1151



Company Profile

企業情報

当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

主要工程

- エッチング
- CVD
- コータ/デベロッパ
- スパッタ
- 枚葉洗浄
- アッシング
- ウエハーボンディング
- イオン注入
- アニール

主要製品

- 真空チャンバー
- シャワーヘッド
- 排気板
- 静電チャック
- ヒーター類
- 上部電極
- ターゲット
- 搬送系パーツ類
- 各種真空パーツ類

※画像はイメージです

会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)	発行済株式総数	13,053,000株
設立	1988年10月	単元株式数	100株
資本金	12億4,115万円 (2019年5月31日現在)	株主総数	8,849名
役員	代表取締役社長 前田 俊一 取締役 海崎 功太 取締役 (監査等委員) 兒島 吉二 取締役 安藤 博音 取締役 (監査等委員) 鶴田 俊成 取締役 古江 博 取締役 (監査等委員) 寺畑 幸雄 取締役 (監査等委員) 梶 智和 取締役 (監査等委員) 大道 卓 取締役 (監査等委員) 桃木野 聡	大株主 (普通株式)	前田 俊一 4,817,500株 前田 美佐子 504,000株 日本トラスティ・サービス 信託銀行 (信託口) 439,200株 川本 忠男 202,300株 前田 良子 180,000株 五十嵐 光栄 168,000株 日本マスタートラスト信託銀 行株式会社 (信託口) 140,100株 マルマエ共栄会 117,000株 GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマ ン・サックス証券株式会社) 113,900株 日本マスタートラスト信託銀 行 (信託口5) 106,200株
従業員数	255名 うち 臨時雇用者等 123名 (2019年5月31日現在)	(注) 自己株式が97株あります。 (2019年2月28日現在)	
所在地	出水事業所 〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地 高尾野事業所 〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41 関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械、精密機器の設計、製造、加工 ・精密機械部品の設計および製作 ・産業および医療機械器具の設計、製造、販売 ・ソフトウェアの開発、販売 ・製缶工事 ・配管工事 ・運送業務 ・不動産の賃貸 		
経営理念	<ul style="list-style-type: none"> ・技術は究極を目指し ・競争と協調を尊び ・技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。 そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>		